

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会  
2024年度会員アンケート調査 集計結果

25/01/17

## <アンケート調査の概要>

- 目的
  - ・会員のロジスティクスの現状・課題調査
  - ・今後の事業展開に向けた顧客ニーズ調査
  - ・J I L S活動の評価確認

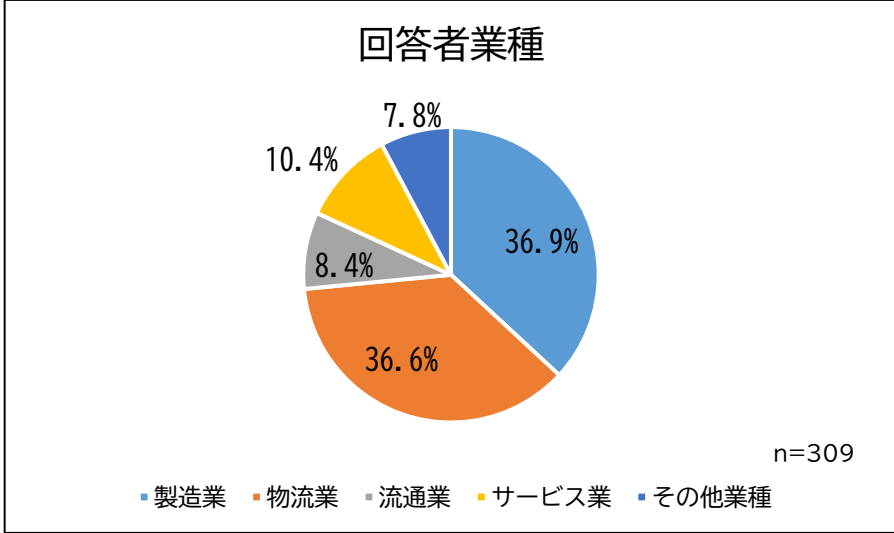
■調査方法  
メール案内、WEB回答方式

■調査期間  
2024年12月2日(月)～12月13日(金)

■調査対象・回答状況  
調査対象：法人会員  
1,057社／登録者 2,229名  
個人会員  
62名

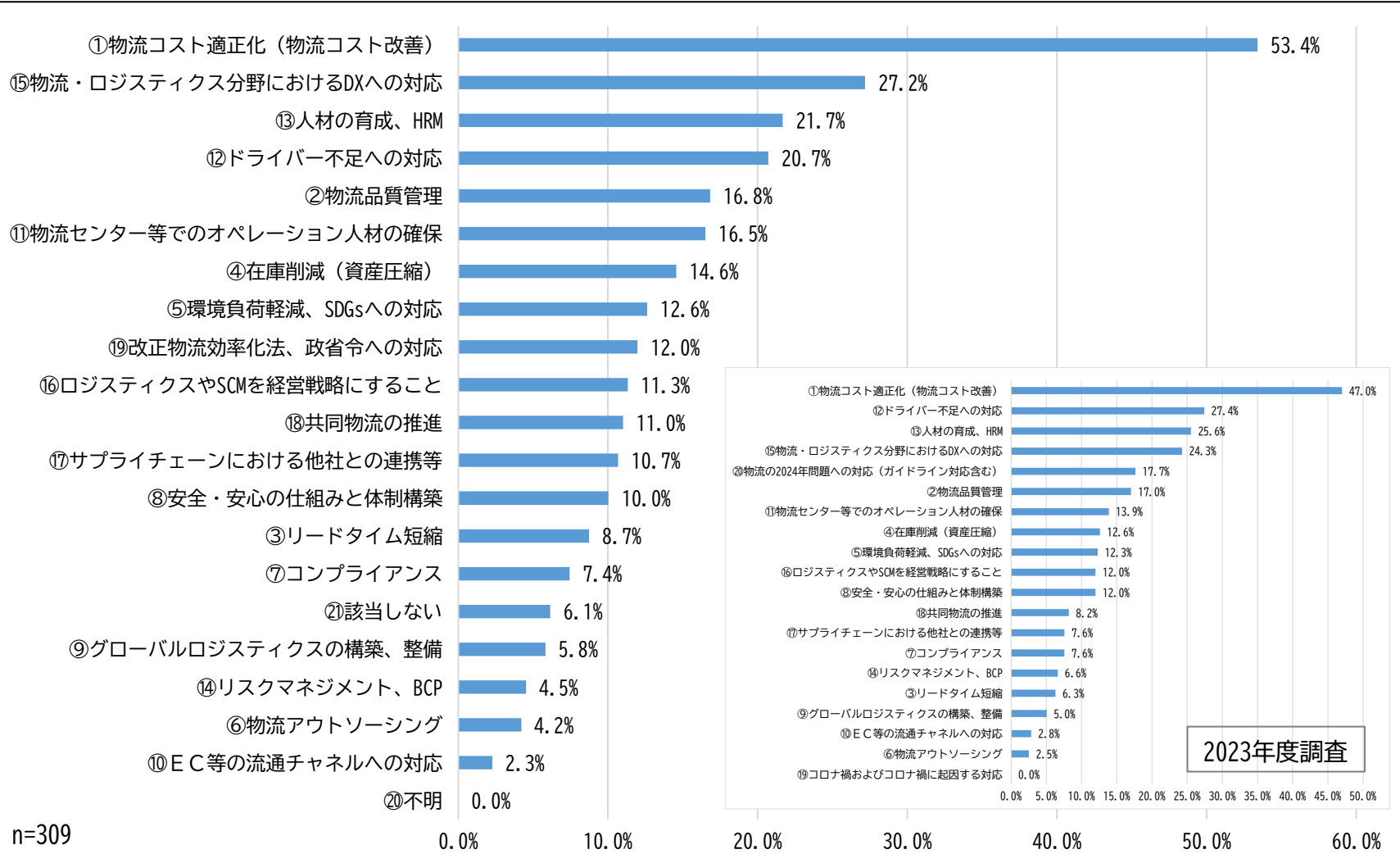
回収状況(括弧内は前年)：  
有効回答数  
309件(317件)／280社(289社)  
回答率  
回答者数／調査対象者数：13.5%(15.4%)  
回答社数／調査対象社数：26.5%(27.7%)

※有効回答の定義  
本調査では、回答者情報：業種、会社名、所属・役職、氏名、メールアドレスのいずれかに記入のあった回答を有効回答とし集計対象とした。



## 1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

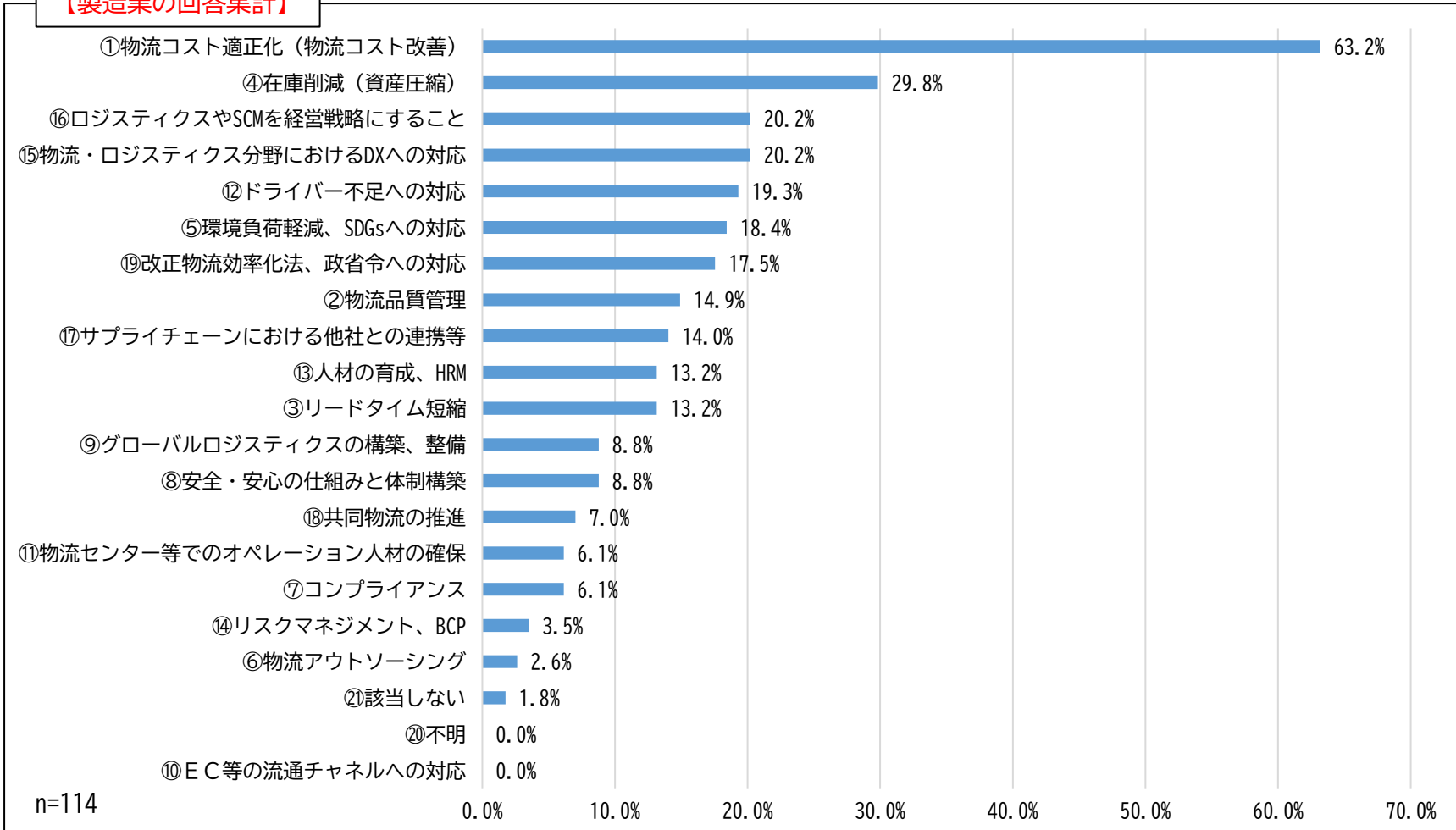
貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。



## 1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

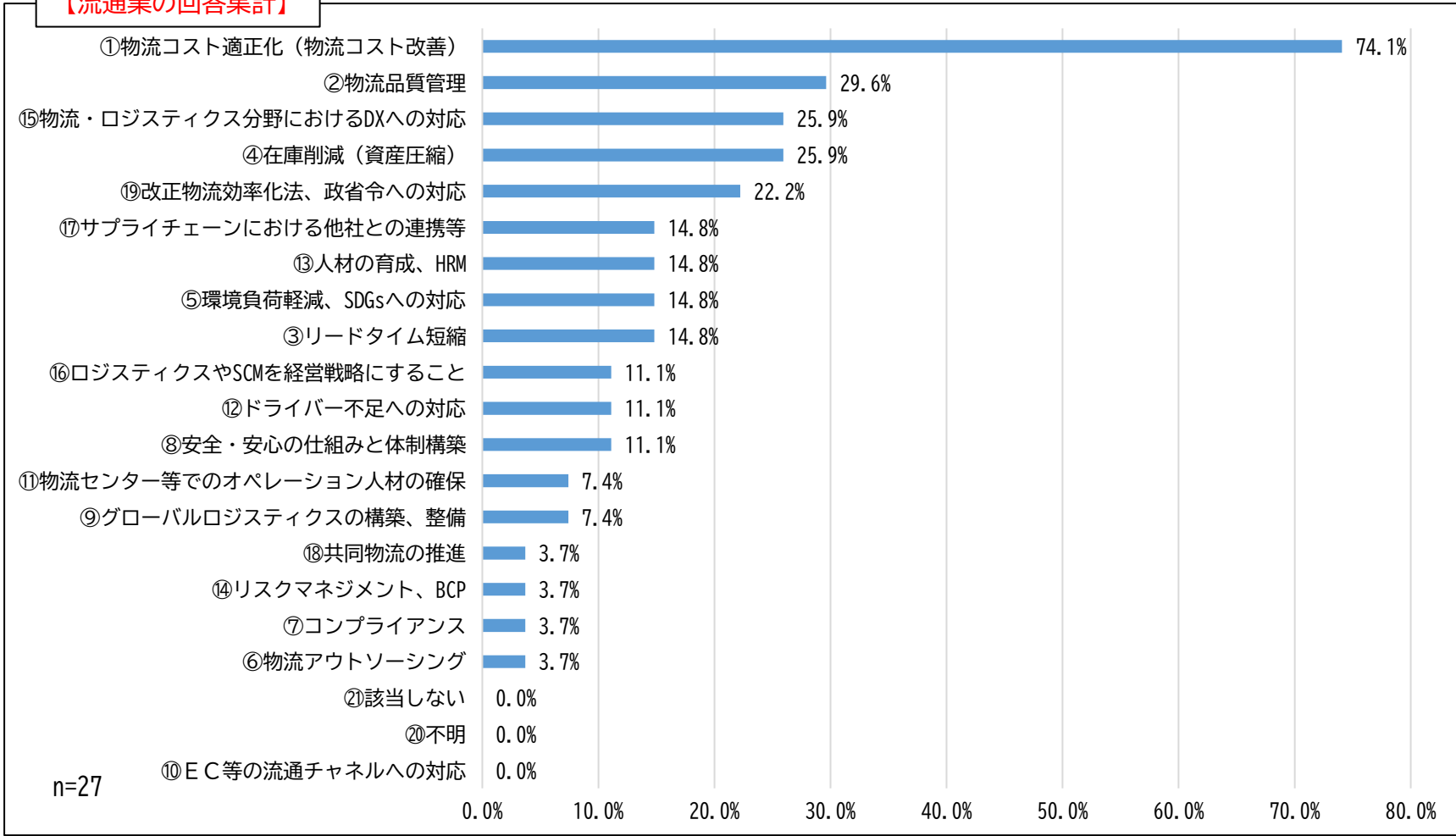
【製造業の回答集計】



## 1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

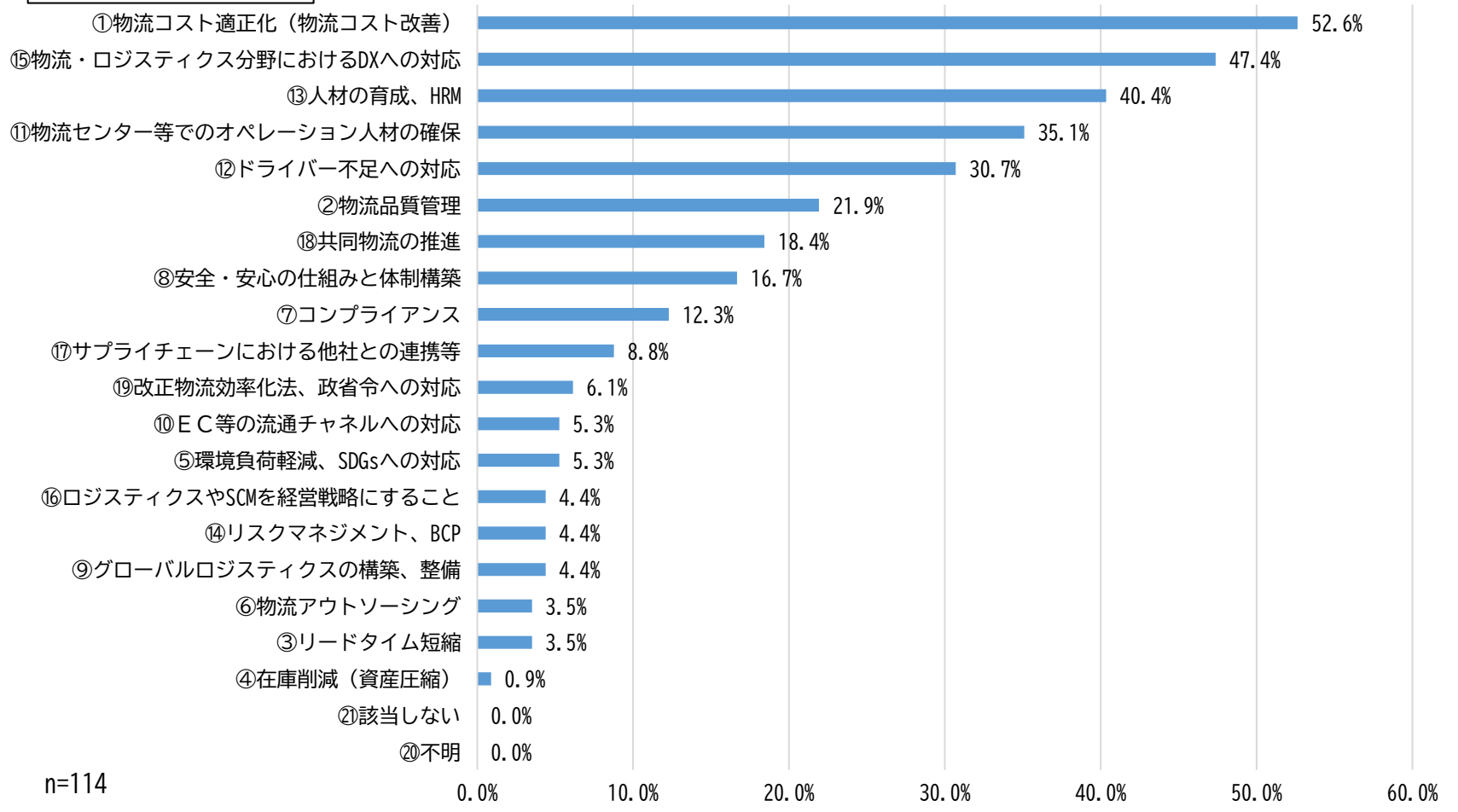
【流通業の回答集計】



## 1-1. ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題

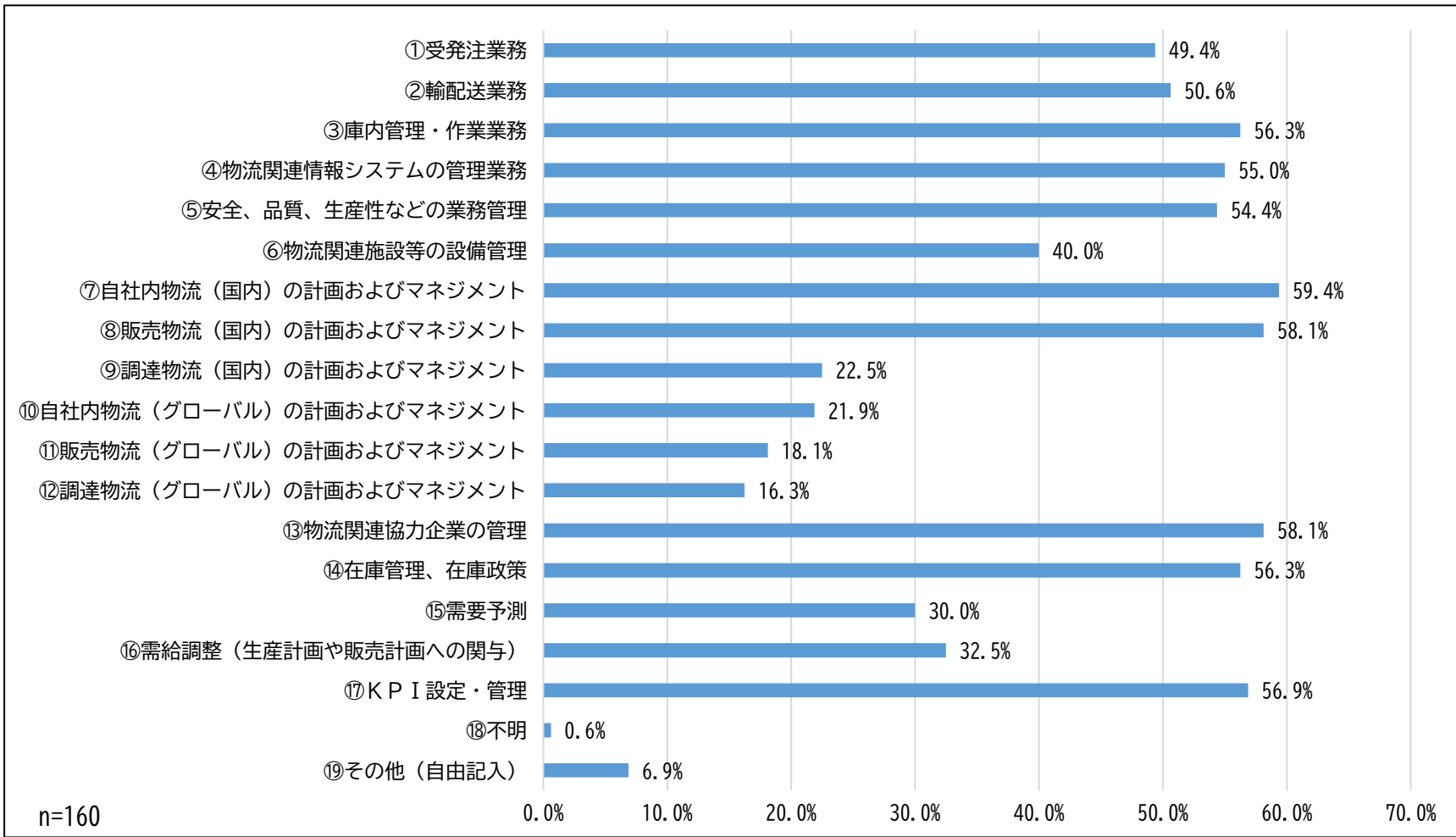
貴社もしくは物流・ロジスティクス・SCM部門において、ロジスティクスやSCMを推進するうえでの課題を3つまで、お選びください。

【物流業の回答集計】



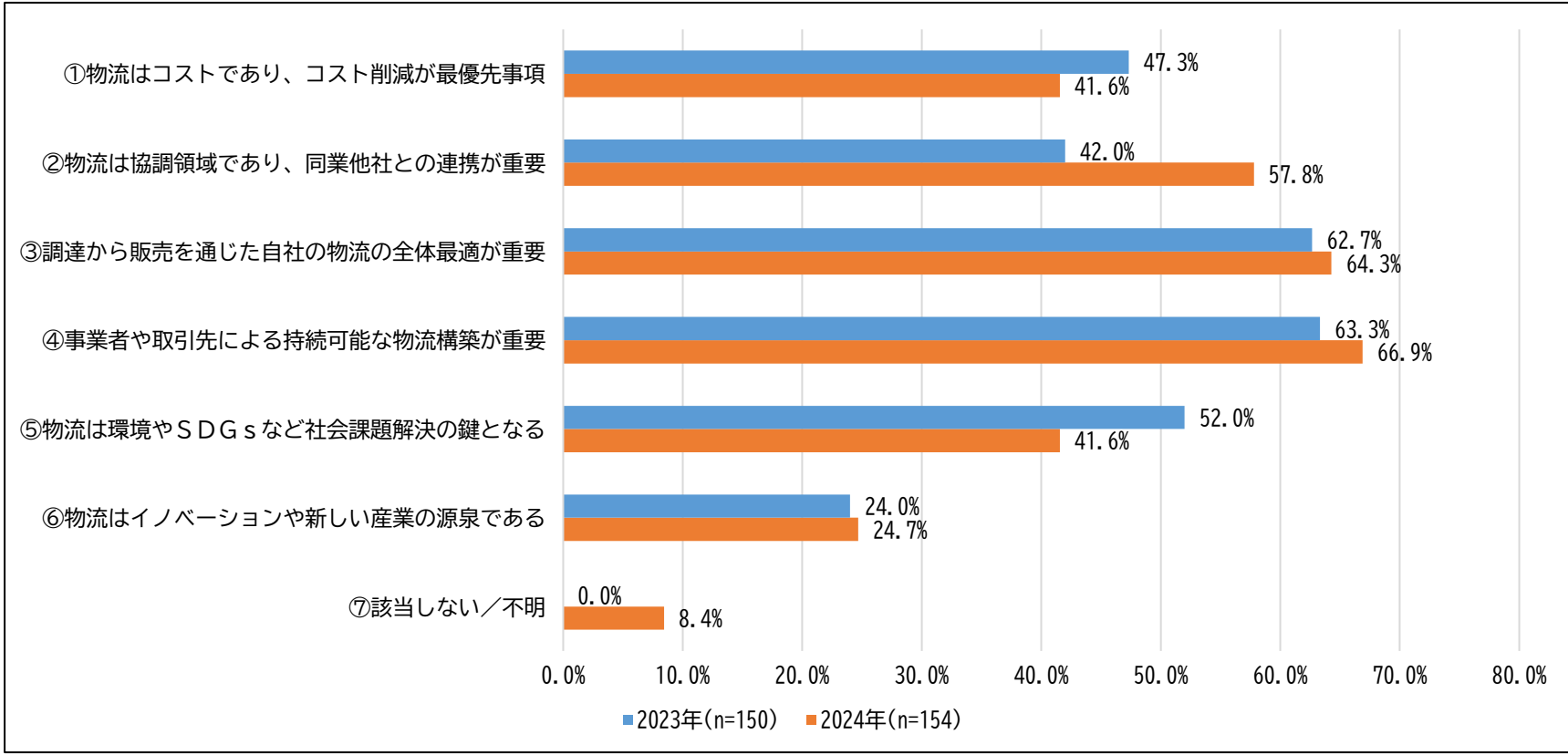
## 1-2. 物流・ロジスティクス・SCM部門の担当業務

【荷主企業の方のみお答えください】  
貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門の担当業務をお選びください（複数選択可）。



## 1-3. 経営層における物流に対する認識

【荷主企業の方のみお答えください】  
貴社（主に経営層）における物流に対する認識について該当するものを、下記の選択肢からすべてお選びください（複数選択可）。

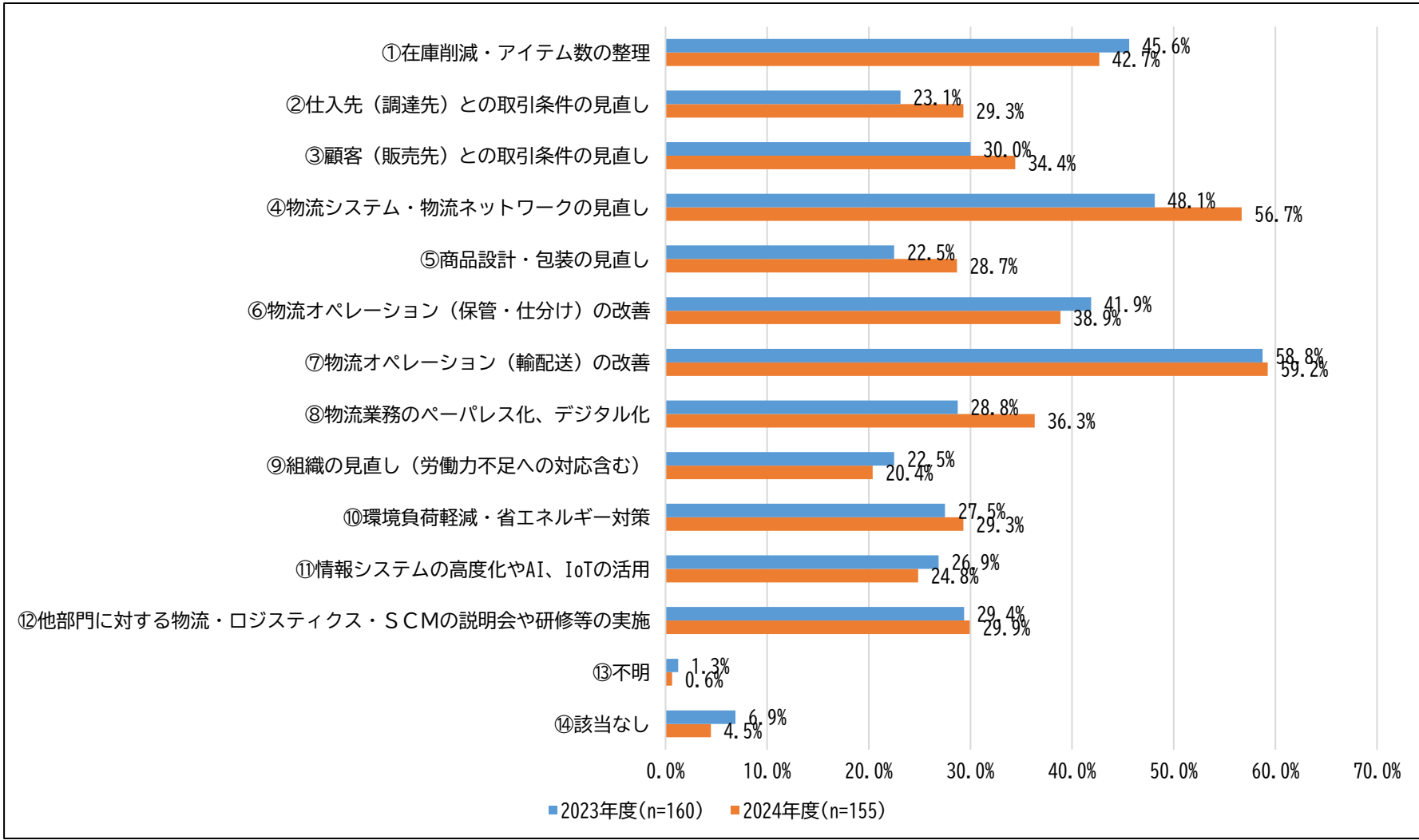


昨年度調査と比べ、  
「①物流はコストであり、コスト削減が最優先事項」（41.6%（前年調査47.3%））への回答が減少し、  
「②物流は協調領域であり、同業他社との連携が重要」（57.8%（前年調査42.0%））への回答が、大きく上昇した。



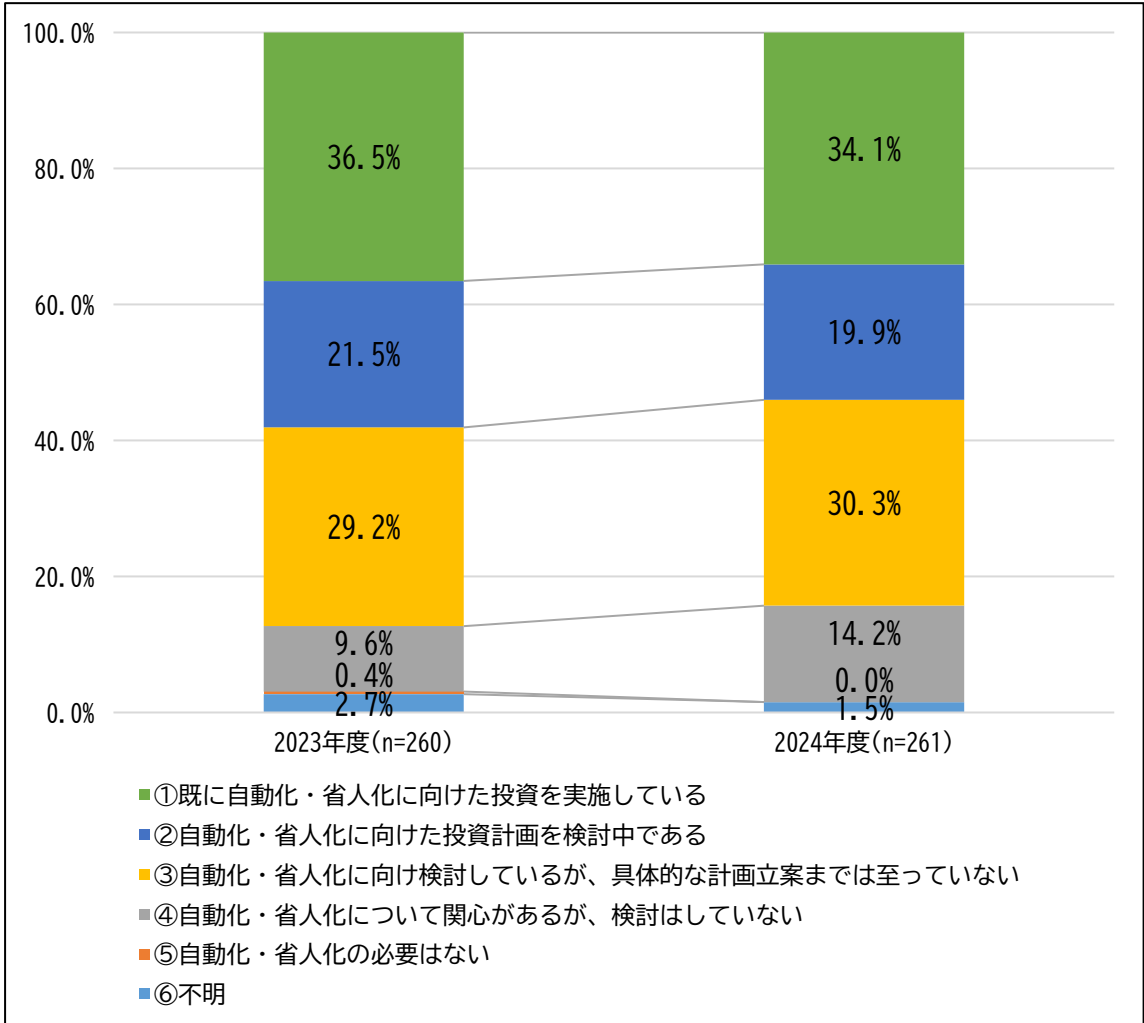
## 1-4. 過去1年程度に取り組まれた施策

【荷主企業の方のみお答えください】  
貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門が主導した、過去1年程度に取り組まれた施策をお聞かせください（複数選択可）。



## 1-5. 自動化・省人化にむけた投資

物流・ロジスティクス分野における労働力不足に対応するため、自動化・省人化等への投資についてお聞かせください（1つ選択）。



## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
アパレル・繊維等	アウトドアウェア	環境負荷削減のための3PLとの協働取り組み。
	繊維	調達物流に対する管理・改善が課題。待機時間改善など。

	サプライチェーンの品目名	課題
化学	化学品	リチウムイオン電池なので、危険品扱いとなり、保管、輸送など非常に苦勞をする（国内だけでなく日本輸出やグローバル全体で）。輸送制限や保管制限等。
	化学品	物流品質の向上。
	化学品	商慣習。
	化学品	業界ごとの商慣習が異なる。 メーカーごとの対応であり共同化が難しい。 特積み業者における危険物の取扱について不透明。
	化学品	ローリーの乗務員不足が顕在化している。
	化学品	物流の共同化。
	化学品	物流共同化、危険物輸送業者の確保。
	化学品	持続可能な化学品物流の構築・維持。製造地、消費地の距離、どうしても長距離輸送が生じること。
	化学品	各国担当者が全体を俯瞰せず、部分最適に走っている。輸入であるが、最終需要国である日本の商習慣を海外サプライヤーは理解しない。
	危険物	小口配送。
危険物	危険物の輸配送および保管。パレチゼーション化。危険物を輸配送できる運送会社が少ない。輸送に適したパレットサイズとドラムサイズが合わず、輸送効率が下がる。	

## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
食品	加工食品（酒類）	納品先の時間指定への対応。 時間指定がある場合、午前便と午後便で運用している路線便では対応できず、物量が少ない場合でも4tトラック等のチャーター便を準備したり、共同配送においても配送効率が悪くなることが多い。時間指定については、路線便の運用ルールに合わせてほしい。
	飲料・加工食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス（需給起因、納品条件起因双方）</li> <li>・納品リードタイム（受注後翌日納品（D1）企業が残っている、卸からの受注締め時間の後ろ倒し要請）</li> <li>・静脈物流を含めた物流共同化への取り組み</li> </ul>
	加工食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・需給に合わせた供給力不足</li> <li>・納品リードタイム見直し・配送力不足</li> </ul>
	加工食品	ASNへの対応。物流会社様との協働取り組み。
	加工食品	物流問題への対応（ドライバー不足への対応、法規制対応など）。
	加工食品	リードタイムの適正化。
	加工食品	商慣習：リードタイム、1/3ルール、外装、荷待ち、付帯業務
	加工食品	小ロット輸送比率が高い、需要予測精度が低い。
	加工食品	コストアップ
	加工食品	小売業の納入期限緩和。
	加工食品	海外に比べて、納品時の商慣行が厳しい。リードタイム、賞味期限、欠品、など。
	加工食品	着荷主のバース予約システムの導入による、配車効率の悪化。
	加工食品	流通在庫の最適化。
	加工食品	待機時間、荷役作業の実態把握。中長期計画の作成と定期報告の対応。
	加工食品	2024年問題への対応として、商慣行の変更がまだまだ進んでいない。モーダルシフトを検討してきたが、鉄道も船舶も必要な枠の確保が困難となってきている。
加工食品	生産物流：長距離輸送ドライバーの確保困難、エリアごとの在庫偏在 販売物流：納品LT延長（D+2）、付帯作業撤廃、長時間待機	

## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
食品	加工食品	リードタイム短縮
	加工食品	返品対応、日付逆転不可の商習慣など。
	加工食品	・納品リードタイム+1日を受け入れてくれない一部の卸会社や小売業（CVSや生協共同購入）の存在。 ・中四国エリアの配送品質（特に山陰・山陽地方）。 ・物流共同化（卸のメーカー倉庫への引取り物流） ・商慣習（価格改定にともなうセンターフィの高騰） ・調達物流の現在地の把握と課題点の抽出。
	加工食品	ドラック企業における返品受入れ（商習慣）
	加工食品	多品種小ロットの物流機能の維持（香辛料は種類が多く1回あたりの消費量が少ない商品特性）
	加工食品	物流業界全体の労働時間短縮のため、お得意先へリードタイム改善や最低配送ロット改善を推進している。ところがCVS業態のみ上手くいかない。荷待ち時間改善にはCVSも取り組んでいる様子ですが、毎日納品は改善される見込みが立たない状況である。
	加工食品	センターの川上における調達物流の効率化を目指す。
	加工食品	商慣習、物流共同化、リードタイム延長、アイテム削減、オペレーション省人化
	加工食品	業務用乳製品(脱脂粉乳など)のパレット輸送化。一部企業の荷受け側のバラ積み下ろし輸送からパレチゼーション化への協力が得られない。受け入れ先でドライバーの積み下ろしが激務であるため、早期変更が必要。荷受け先によって荷受け態勢がバラバラである事も協力が得られない理由と思われる。
	加工食品	商慣行、ペーパーレスを見据えたEDI化、作業の省人化（含む事務）
	加工食品	納品リードタイムが短く、数量の変更も多く、配送に苦労する。
	低温輸送が必要な加工食品	物流の共同化（共同配送）
	冷凍の食品原料	海外調達における情報の一元管理、コストマネジメント
	加工食品	リードタイム短縮
	加工食品	返品対応、日付逆転不可の商習慣など。

## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
紙製品・書籍等	紙+段ボール	出荷注文のリードタイムの商慣習。
	紙製品	共同配送など物流の効率化
	出版流通	再販売価格維持制度（定価制度）下における物流コスト負担（消費者に流通コストを転嫁できない構造）。
	新聞輸送	新聞輸送の時間帯が一般貨物と異なるため、共同物流化が難しい。新しい運び方を提案しても既存の取引先との関係、物流コスト、輸送品質面の担保など物流部門だけで判断できないためP o Cに進みにくい。

	サプライチェーンの品目名	課題
建設・建材等	塩ビパイプ、屋根壁材料（建材）	バーコードや2次元コード（QR）がない状態で流通しており、LogisticsのDX化の大きな障害となっている。
	建材	商慣習。多重下請け構造。材工一式。物流共同化。
	建設資材の輸送	共同配送
	建築資材	商習慣（リードタイム）
	建築資材	業界標準バーコード化の推進、共同物流化の推進
	戸建住宅	積載効率の悪い貨物が多く、品種が多い。
	住宅建材	業界全体でドライバー不足、荷量低下に伴う効率悪化。

## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
機械器具・精密機器等	医療機器、電子製品	物流業務以外の周辺業務（受発注、製造、返却物流）含めた全体最適（QCD+人材育成）
	家電	共同配送
	楽器、音響製品他	米中対立を中心とした全世界的な保護主義貿易の流れへの対応（生産拠点見直し等）。
	機械	国際物流の価格高騰と船腹不足。
	機械部品	調達物流（現状は未関与）
	金属加工・関連部品、钣金製品、電子・電気部品	主要製品の安定確保
	金属加工製品（アルミ建材）	（商慣習） 納材店/問屋への納品時の制約条件（時間指定納入や物件別降ろしなど）
	空調機器	需要変動と生産、物流の平準化を両立させる事が難しい。
	事務機器、POSシステム	共同輸配送（運べないリスク）、物流費高騰、輸送LT増加、地政学/気候変動リスク
	精密機械	視える化
	製造部品	部品類の据付人員不足による在庫量削減ができない。据付人員不足で複数の倉庫賃借しているが在庫量増に伴い、オーバーフローで毎年倉庫探しで苦労している。
	電動ベッド・家具類	パレタイジング困難な製商品に対する、荷役時間削減について課題有り。
	半導体デバイス	商習慣：商社を経由する場合、複数のバーコードが貼付される
	半導体関連	取引先の生産キャパ、コスト増による値上げ

## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
自動車関連	リチウムイオン電池	保管、物流荷姿
	完成車両、生産部品物流、アフターマーケット物流	1台を生産するのに集約されてくる部品を欲しい時に欲しい量を運ぶ、保管する、荷役する事の難しさ。従前の物流事業者は、DXやイノベーションを行う知識、能力、経営判断はなく、パートナーとして物足りなさを感じていること。
	自動車部品	JIS供給の実現。
	自動車用製造部品	九州域内における未調達部品の開拓。
	輸送用機械器具	商慣習として1月～3月期に業界全体の最大需要期が集中しており、輸送能力の安定供給に重大な負荷がかかっている。一部ではあるが荷主様企業内での物流に対する意識改革が思うように進んでおらず、SCMの権限がまだ弱いため生販のひずみを物流部門が吸収し続ける体質が改善されていないため、輸送部門の負担が重いままになっている。

	サプライチェーンの品目名	課題
素材等	ウレタン、ゴム製品（素材）	ウレタン、ゴム製品（素材）での適正な梱包形態。サイズが大きく、不定貫であり、一元化が課題。バラ積みであり、荷役時間かかる（特に輸出コンテナバンニング）
	鉄鋼製品	重厚長大貨物故に取り扱いが特殊で定型化出来ない。
	特化物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長距離輸送スキームの改善。共同配送等。</li> <li>・倉庫費用（外注）における適正コストの試算</li> <li>・物流データの見える化</li> </ul>
	包装材料	多品種、季節変動



## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	サプライチェーンの品目名	課題
日用雑貨等	スポーツ用品	配送センター自動化。
	プラスチック日用品雑貨	全国の小売店舗に荷物を発送する上で、県下の運送会社の輸送能力が年々低下しており、納品のリードタイムが延びているのが課題である。
	育児用品	商慣行の見直し、得意先との協働。
	化粧品物流	波動対応、多忙期の当日出荷分の線引等（運送会社集荷時間制限への対応）。
	化粧品物流	配送手段の検証見直し。慣例の物流業務習慣を見直し、時間管理を重視。
	家庭用品雑貨	商品が海外調達によっておこる在庫調整が課題。
	日用雑貨品	物流共同化
	文具事務用品	販売店に対して個別要件に基づく物流サービスやコスト負担の維持について商慣習の中でなかなか変更出来ない。業界自体が低収益、縮小構造であるがシェア低下を恐れてどこも踏み切れない現状。
	スポーツ用品	配送センター自動化。

	課題
その他・分類無	納品先のトラック予約システムの問題。トラック予約システムにより車輛1台当りの配送件数が減少＝積載率の低下。
	サプライチェーンの各工程における料金の適正化。荷主の料金適正化への理解。
	サプライチェーンを構成する取引先の廃業によるサプライチェーンが棄損することの懸念があります。円滑に事業の承継を進めることが課題です。
	ドライバー不足対応⇒倉庫側の荷役増加。運賃+荷役コストの上昇。

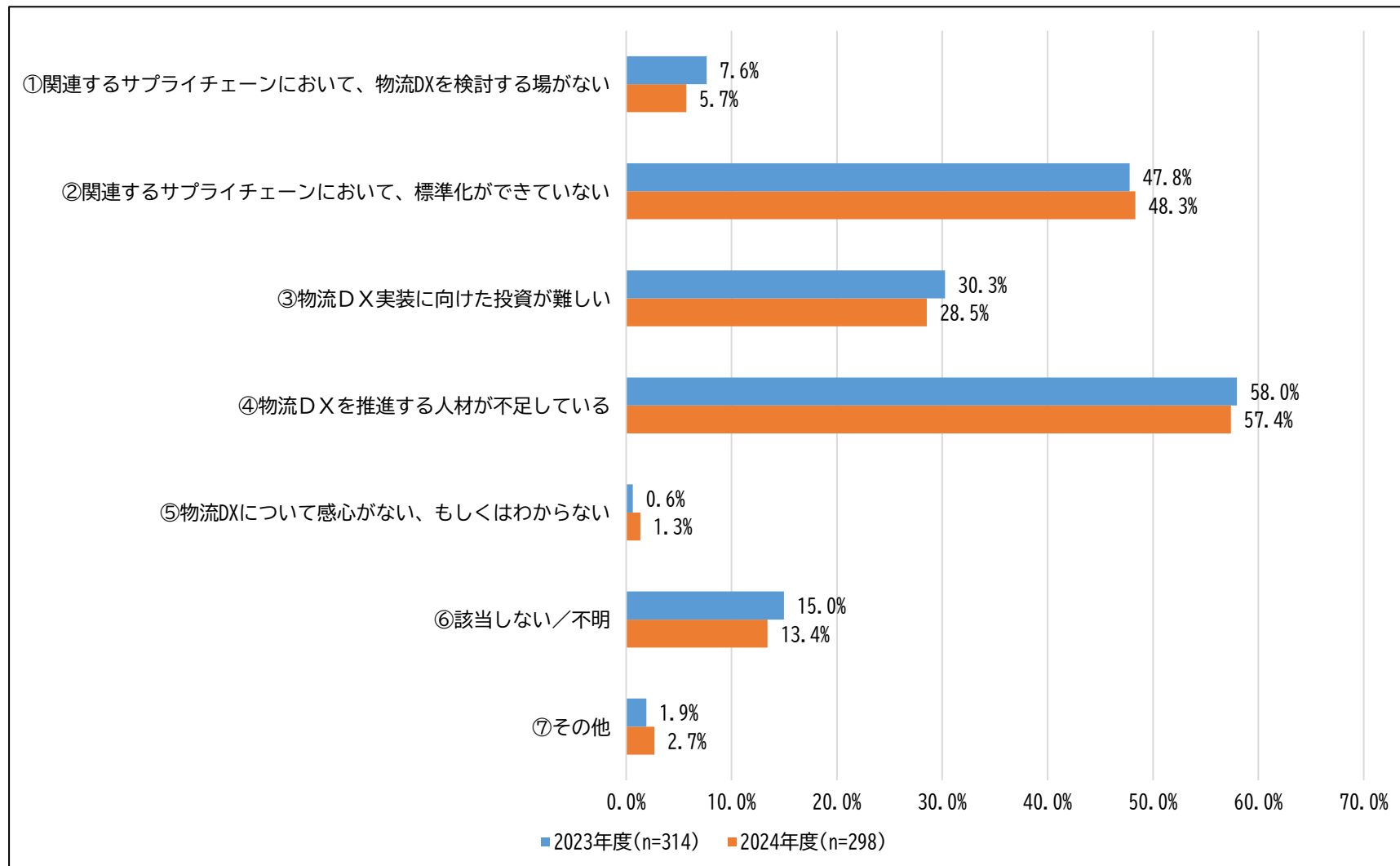
## 1-6. サプライチェーン別課題

貴社の関わるサプライチェーンにおいて、課題がありましたらお聞かせください（自由記入）。

	課題
その他・分類無	原価高騰を受けての価格転嫁、オペレーション省人化。データ・マテハンの統一化や商慣習等の物流効率化へ向けた業界全体の意識。
	事業の構造変化にあわせ、物流網を再構築したい。グループ子会社統廃合による物流コスト削減など。
	持続可能な製品配送体制の構築に向け、ドライバーのみならず倉庫内物流職の人員不足が課題。
	リードタイム、時間指定、荷待ち時間、手荷役作業等。
	多くの業界で結果的に個別最適となる機械化自動化が進められようとしている点。SCM全体での最適化という発想に乏しい。原材料から最終消費者までを考慮した物流の構築を考えていく必要がある。
	ダメージのクレームの低減。
	お客様の庭先から貨物駅までのトラック輸送力の確保

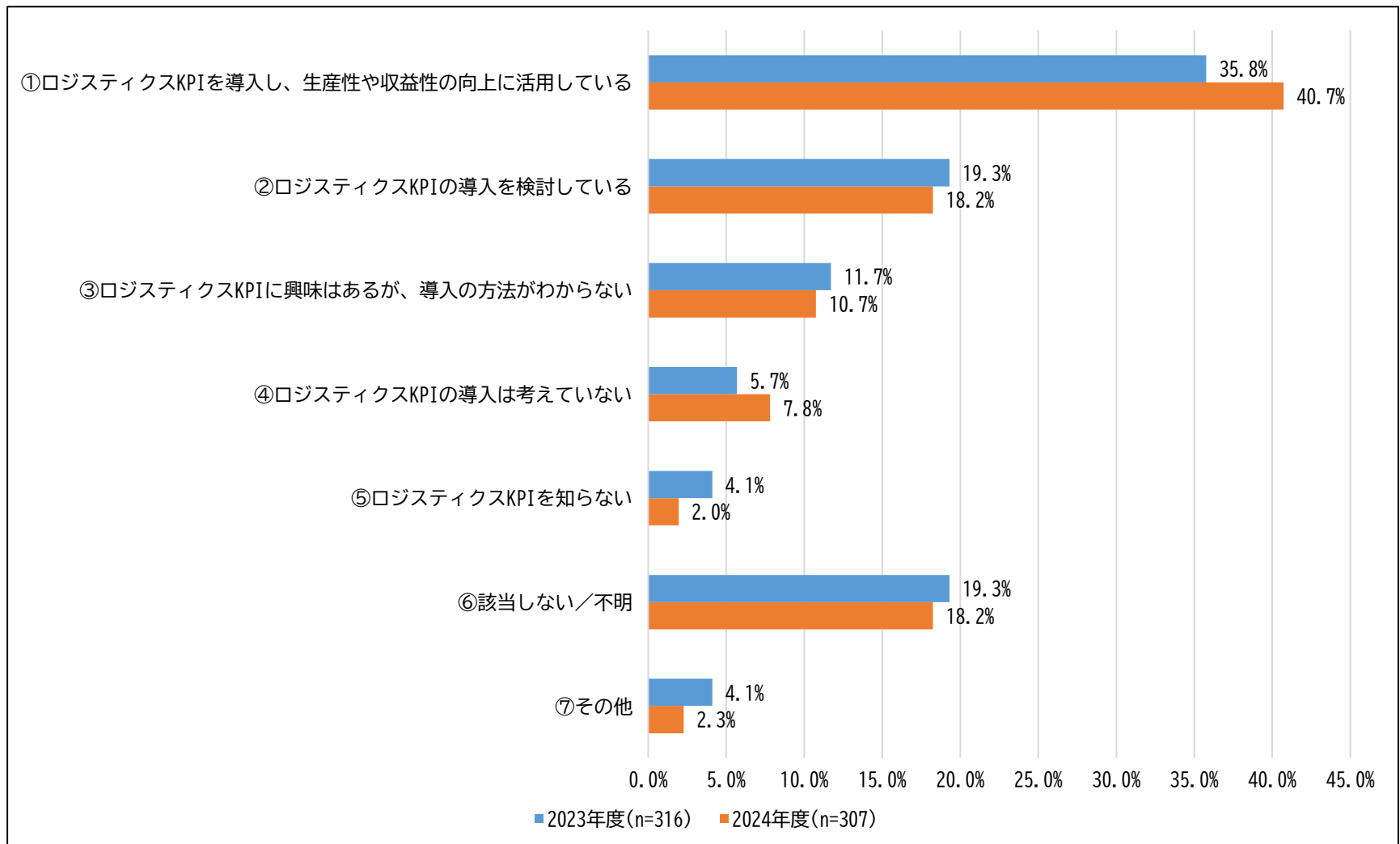
## 2. 物流・ロジスティクス分野におけるDXの課題

物流・ロジスティクス分野におけるDX（機械化・デジタル化を通じて物流のこれまでの在り方を変革すること）について、課題をお聞かせください（複数選択可）。



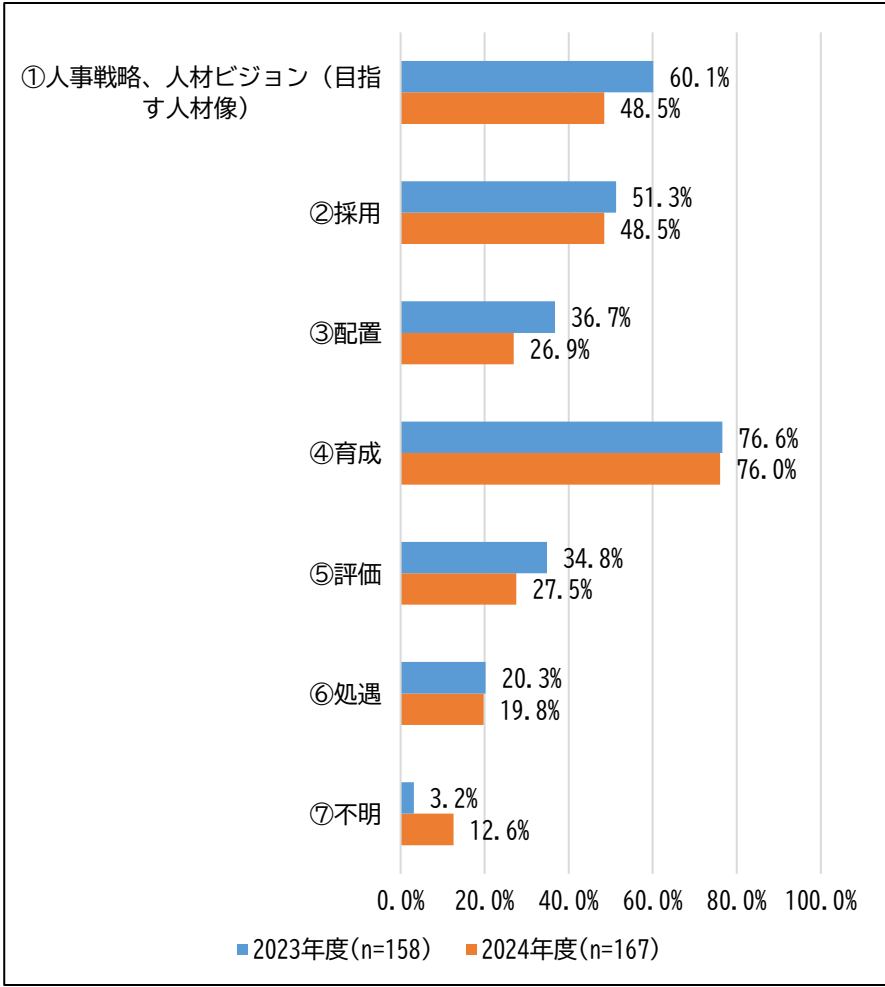
## 3. KPI活用状況

ロジスティクスKPI（key performance indicator）の活用状況をお聞かせください（1つ選択）。

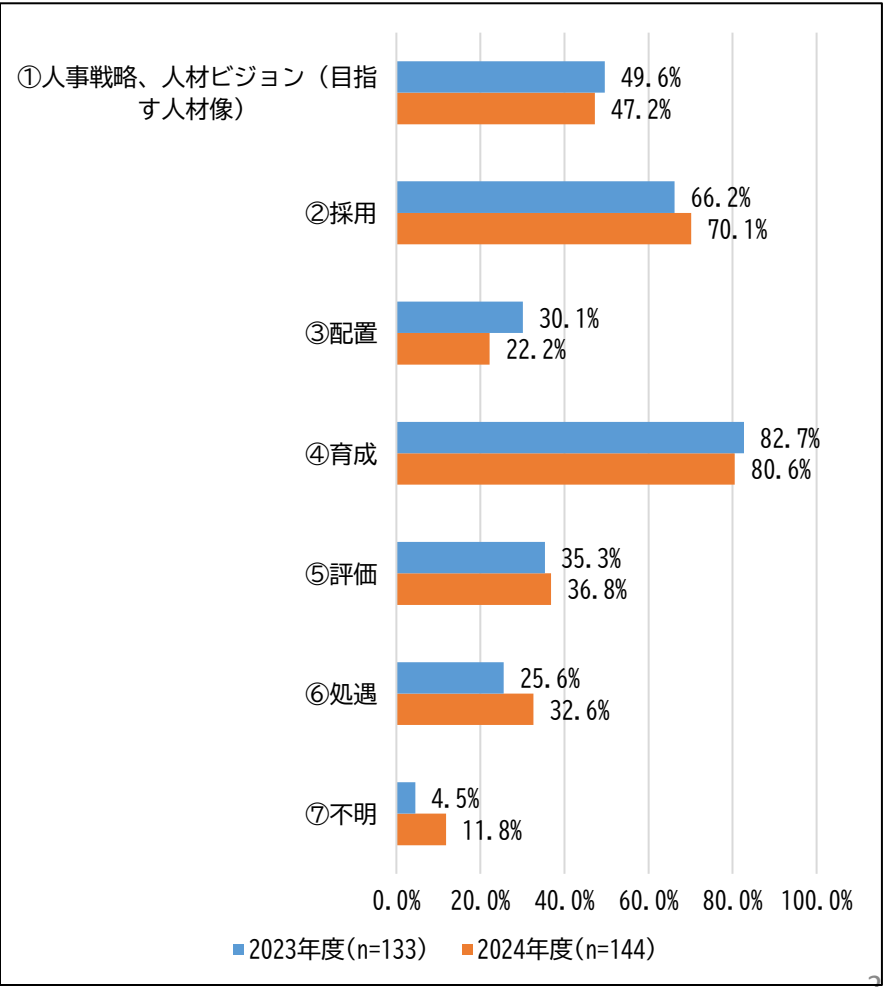


## 4. HRMの主な課題領域

【荷主企業の方のみお答えください】  
 貴社の物流・ロジスティクス・SCM部門のHRMに関する主な課題領域をお聞かせください（複数選択可）。



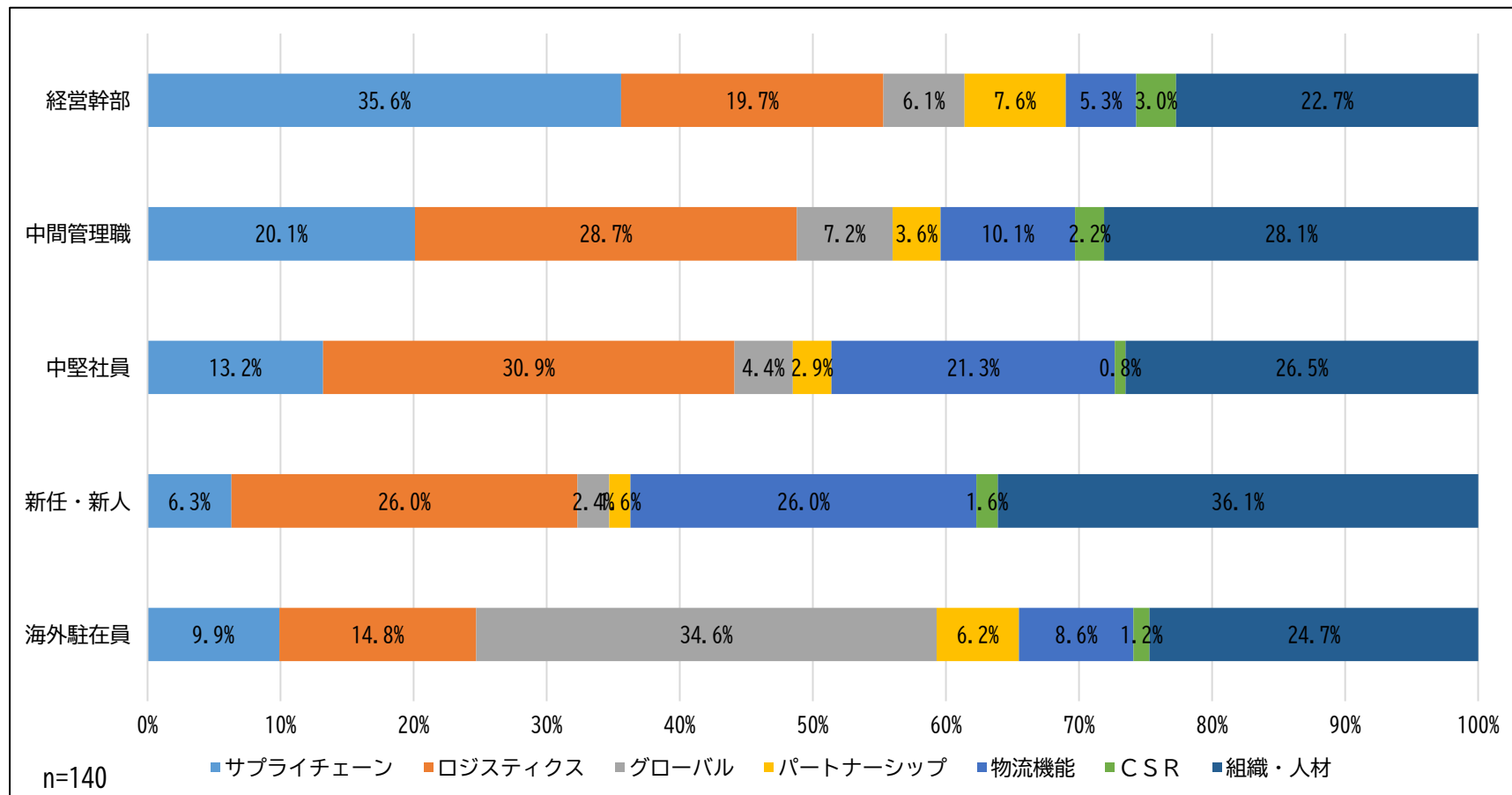
【物流企業の方のみお答えください】  
 貴社のHRMに関する主な課題領域をお聞かせください（複数選択可）。



## 5-1. 人材育成における重点テーマ【荷主企業】

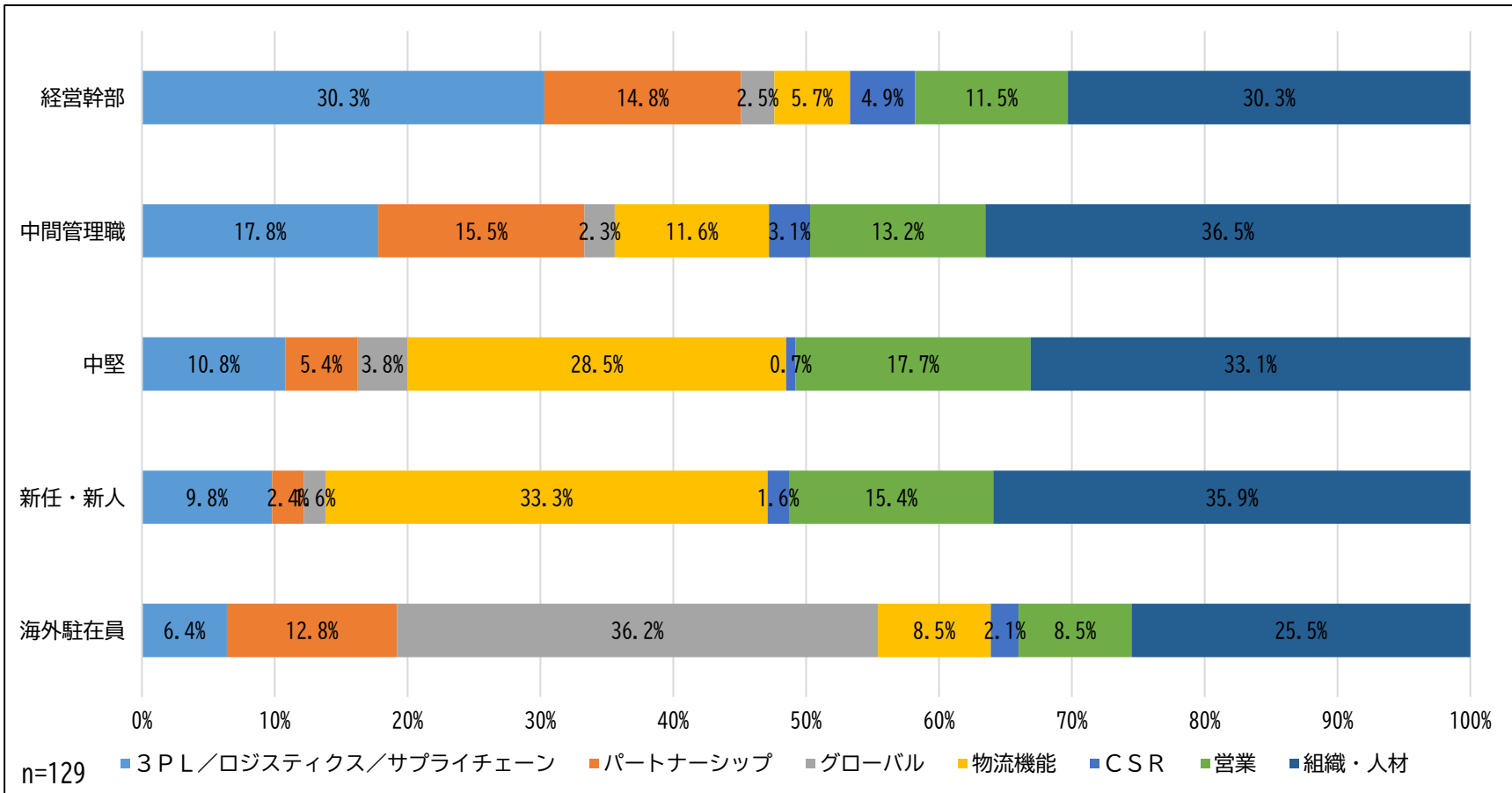
【荷主企業の方のみお答えください】

物流・ロジスティクス・SCM分野の人材育成について、以下に示す領域において課題と感じている箇所にチェックをお願いします（複数選択可）。



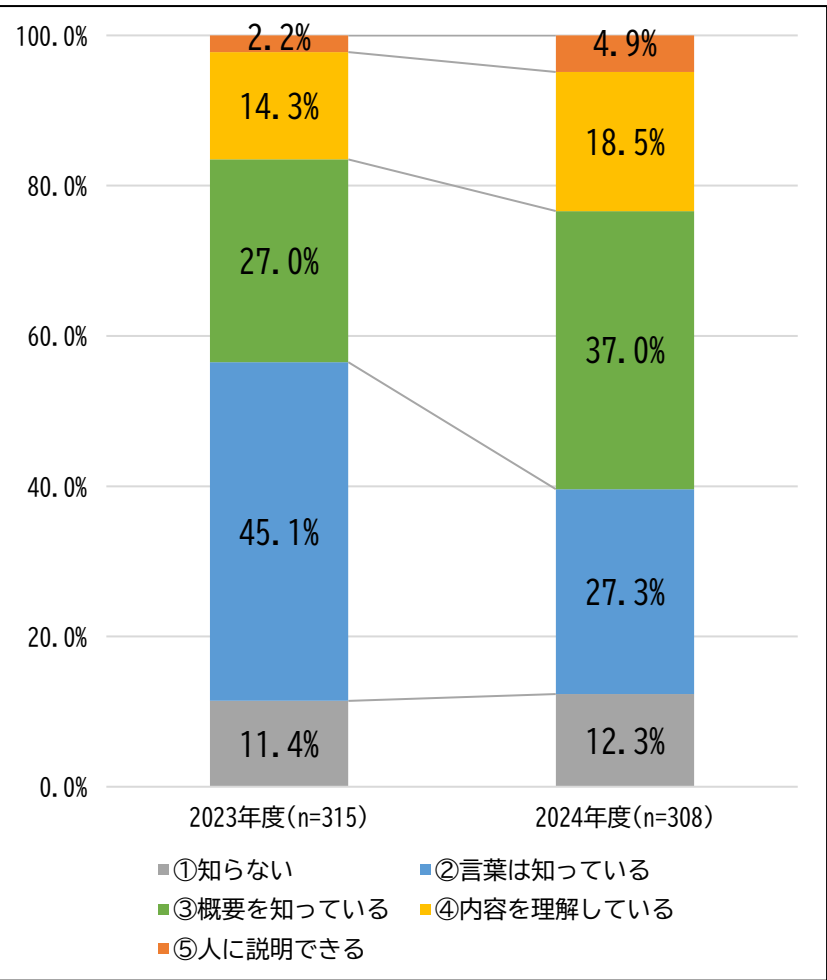
## 5-2. 人材育成における重点テーマ【物流企業】

【物流企業の方のみお答えください】  
 貴社の人材育成について、以下に示す領域において課題と感じている箇所にチェックをお願いします（複数選択可）。

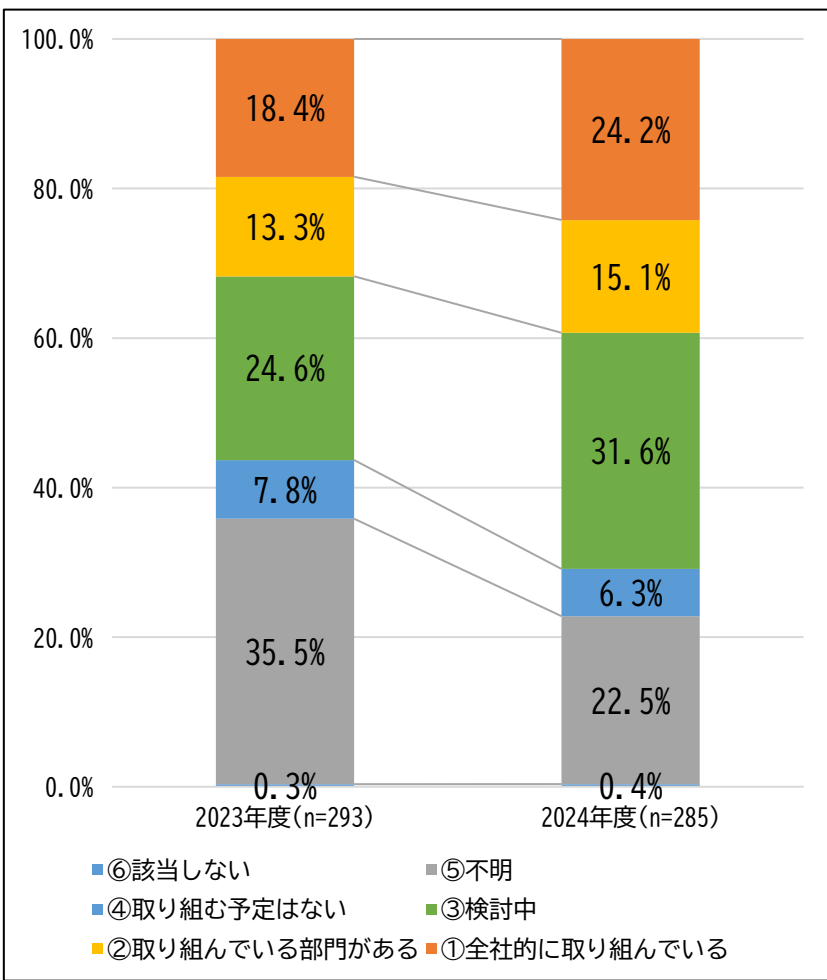


## 6-1. 人的資本経営

「人的資本経営」についてお聞かせください。「人的資本経営」をご存じですか（1つ選択）。



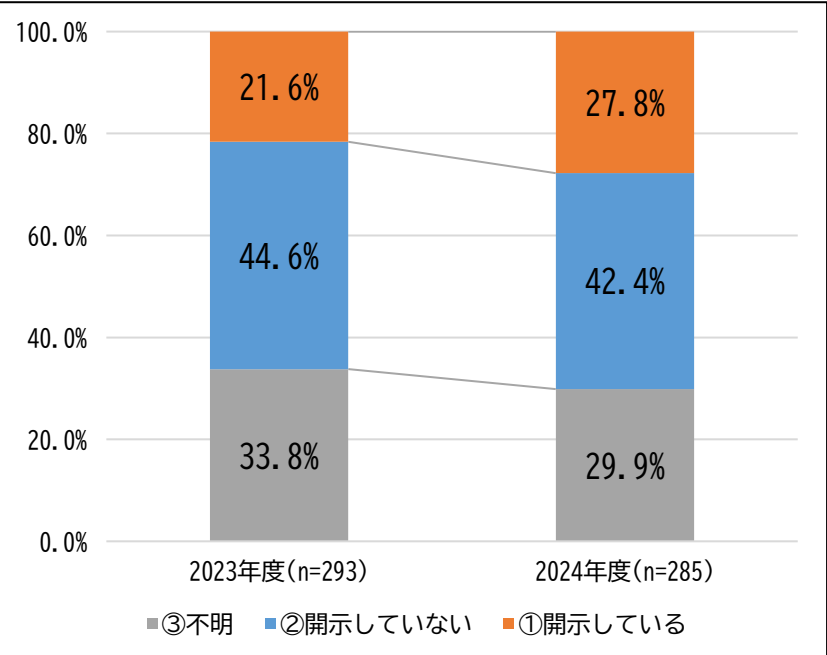
貴社の人的資本経営の取り組み状況についてお聞かせください（1つ選択）。





## 6-2. 人的資本経営

【人的資本経営に既に取り組んでいる企業にお聞きします】  
 貴社は人的資本情報を、社外に開示していますか（1つ選択）。

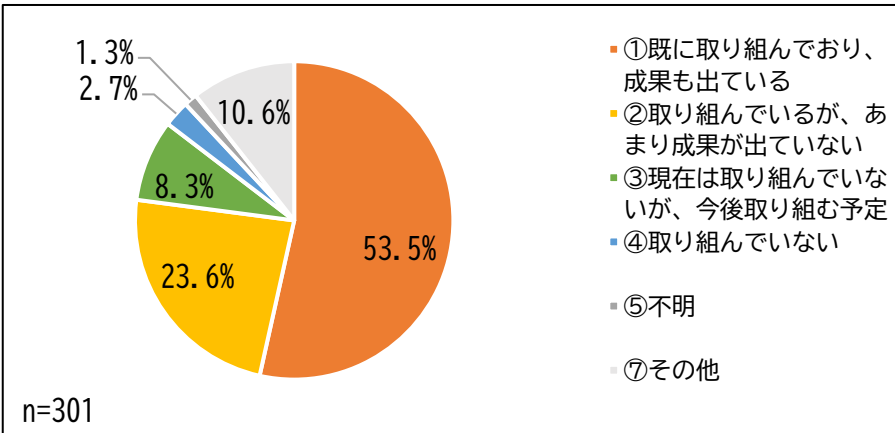


【人的資本経営に既に取り組んでいる企業にお聞きします】  
 どのような項目を情報開示していますか（自由記入）。

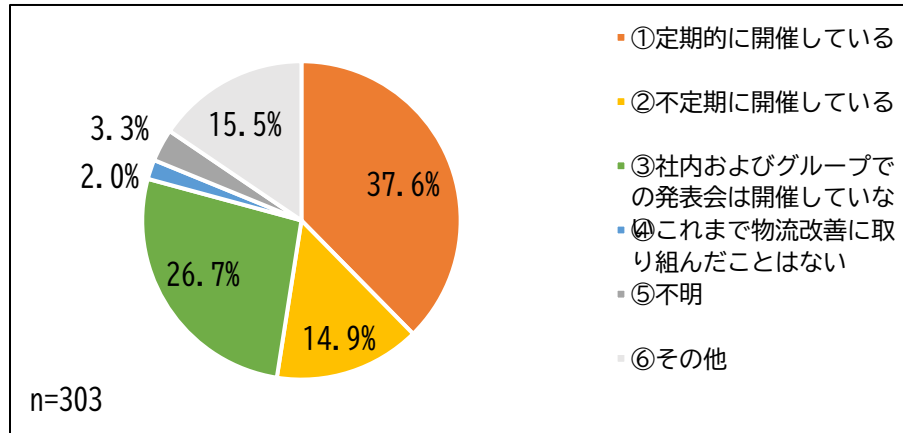
- エンゲージメント調査
- 企業取組方針、ダイバーシティ&インクルージョンの取組実績等
- 人財育成方針と社内環境整備方針
- 教育、トレーニングプログラム、インセンティブプログラムなど
- ダイバーシティ・人材育成・エンゲージメント
- 各種スキル
- 「事業の競争力強化」と「個々人のウェルビーイング向上」の両立を目指す
- 人財要件、人財育成プログラム
- 人材育成方針や社内制度
- 方針、施策
- 働きがい、DE&I、組織風土改善等
- 人材マネジメントの取組
- 様々なスキルアップ
- 価値提供の取組み
- グローバル人材、女性の活用等
- 資格、スキル、職歴、学歴等のキャリア情報。
- 基本方針、全体像、戦略
- システム導入
- 社員への研修・資格取得
- 女性社員比率、障害者雇用への取り組み、研修内容など
- NXエンゲージメントスコア、人的資本ROI
- 生産性（時間当たり売上や事業利益）

## 7. 物流改善活動

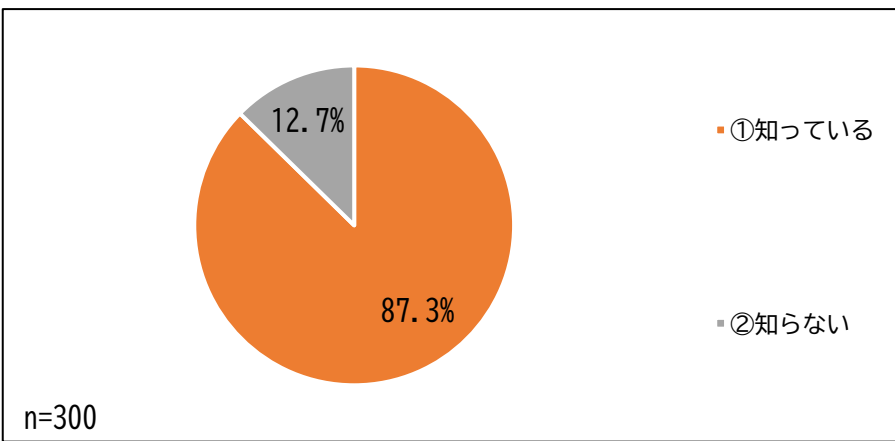
物流改善活動への取り組み状況について、お聞かせください（どれか1つ）。



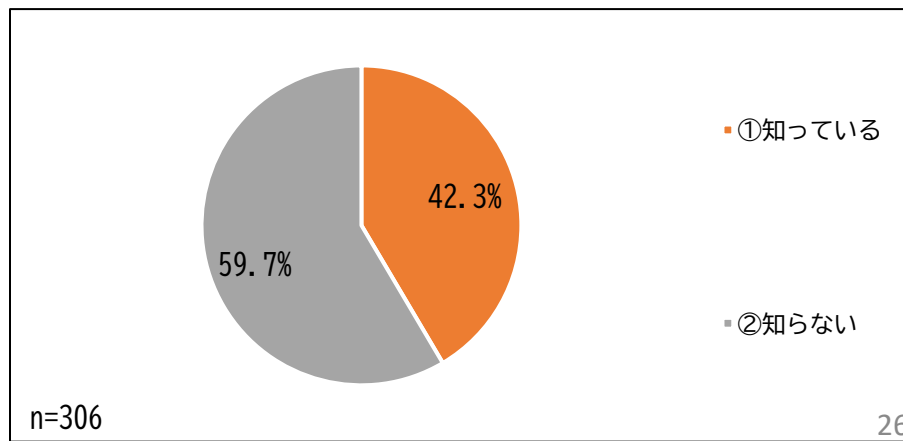
社内もしくはグループによる物流改善活動の成果発表会についてお聞かせください（どれか1つ）。



JILSでは、全国の物流現場、物流部門で取組まれた優れた物流改善の成果を発表し、実務者間で効率化・合理化のノウハウを共有する「全日本物流改善事例大会」を毎年開催しています。本大会のことを知っていますか（1つ選択）。

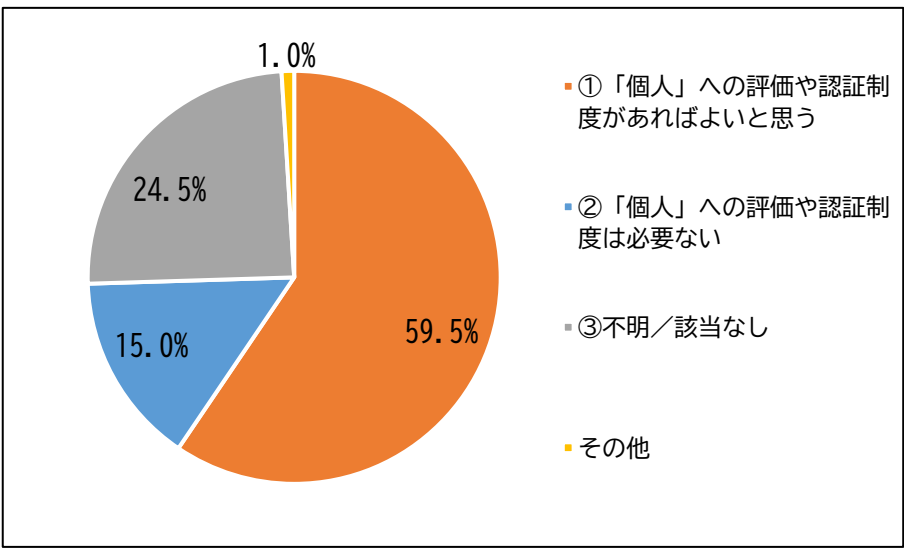


JILSでは物流現場改善に積極的に取り組む企業の活動を応援するため、物流現場改善の先進企業を認定する「物流現場改善優良認定制度」を実施しております。本制度のことを知っていますか（1つ選択）。



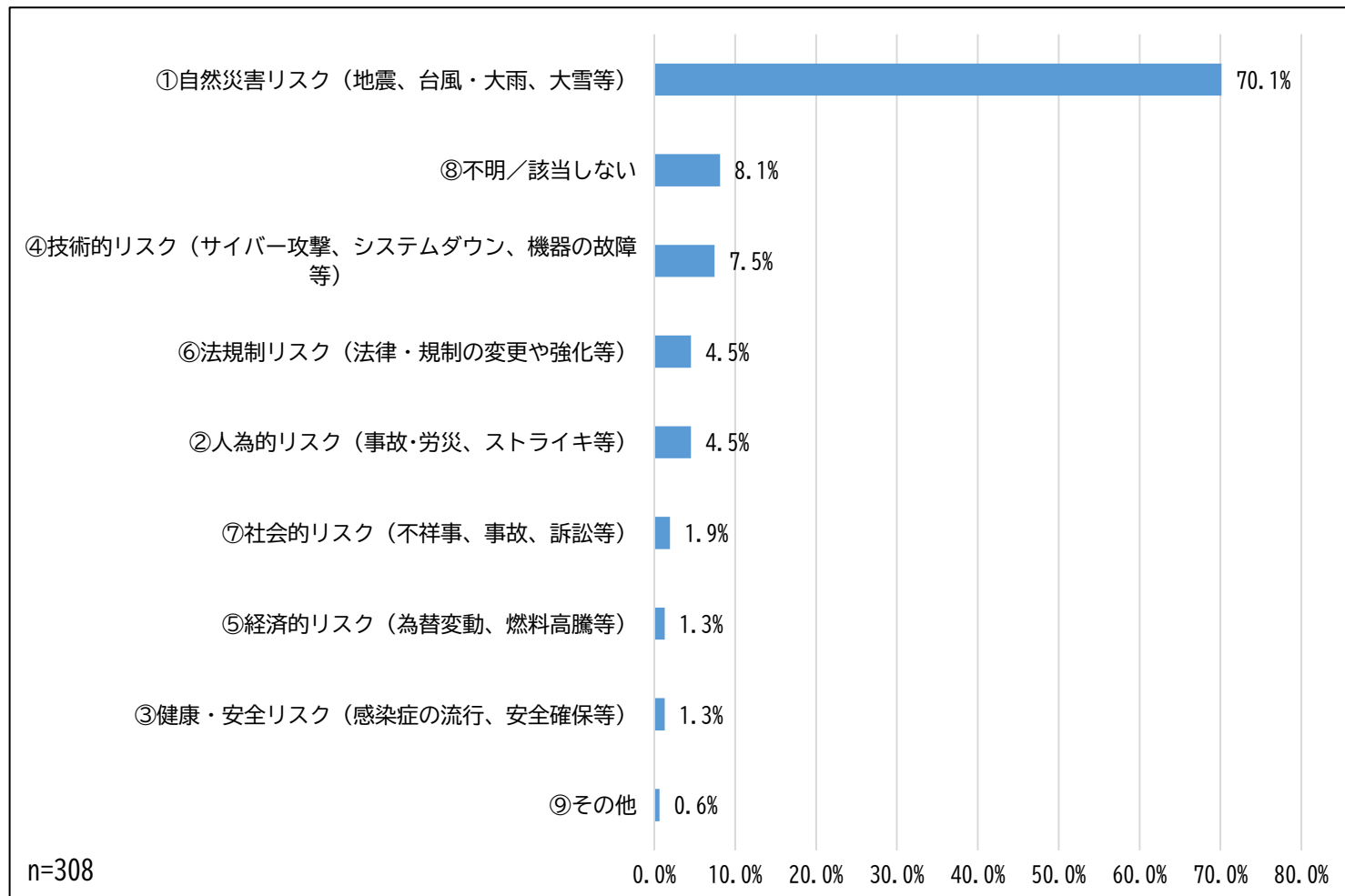
## 7. 物流改善活動

現在JILSでは、物流現場改善に積極的に取り組む「個人」を応援するための施策を検討しております。「個人」への評価や認証制度について、お聞かせください（1つ選択）



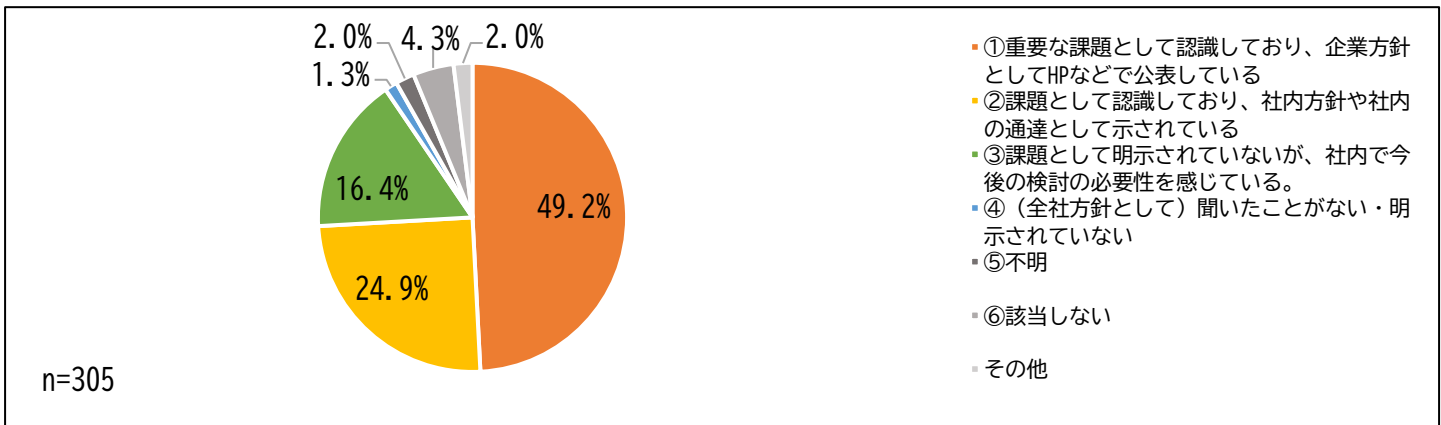
## 8. BCP

貴社において、物流・ロジスティクスにおけるBCPを策定するうえで、最も重要な課題となっているリスクをお聞かせください（1つ選択）。

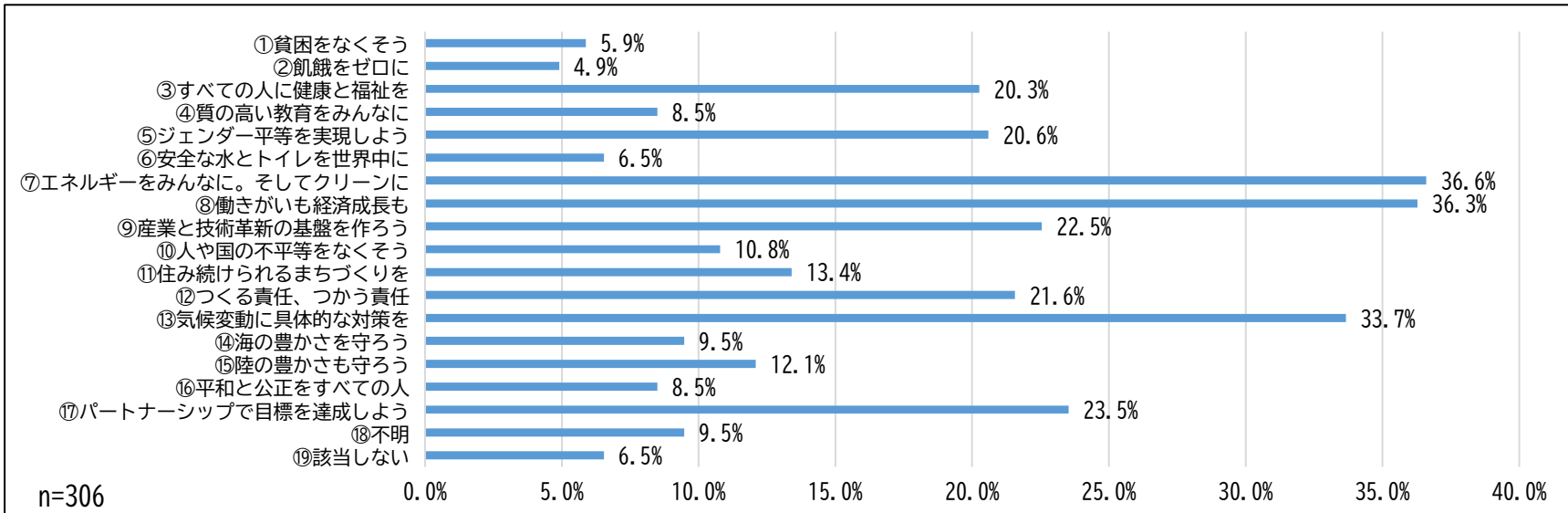


## 9. SDGsに関する取り組み状況

SDGsに関する取り組み状況についてお聞かせください（1つ選択）。

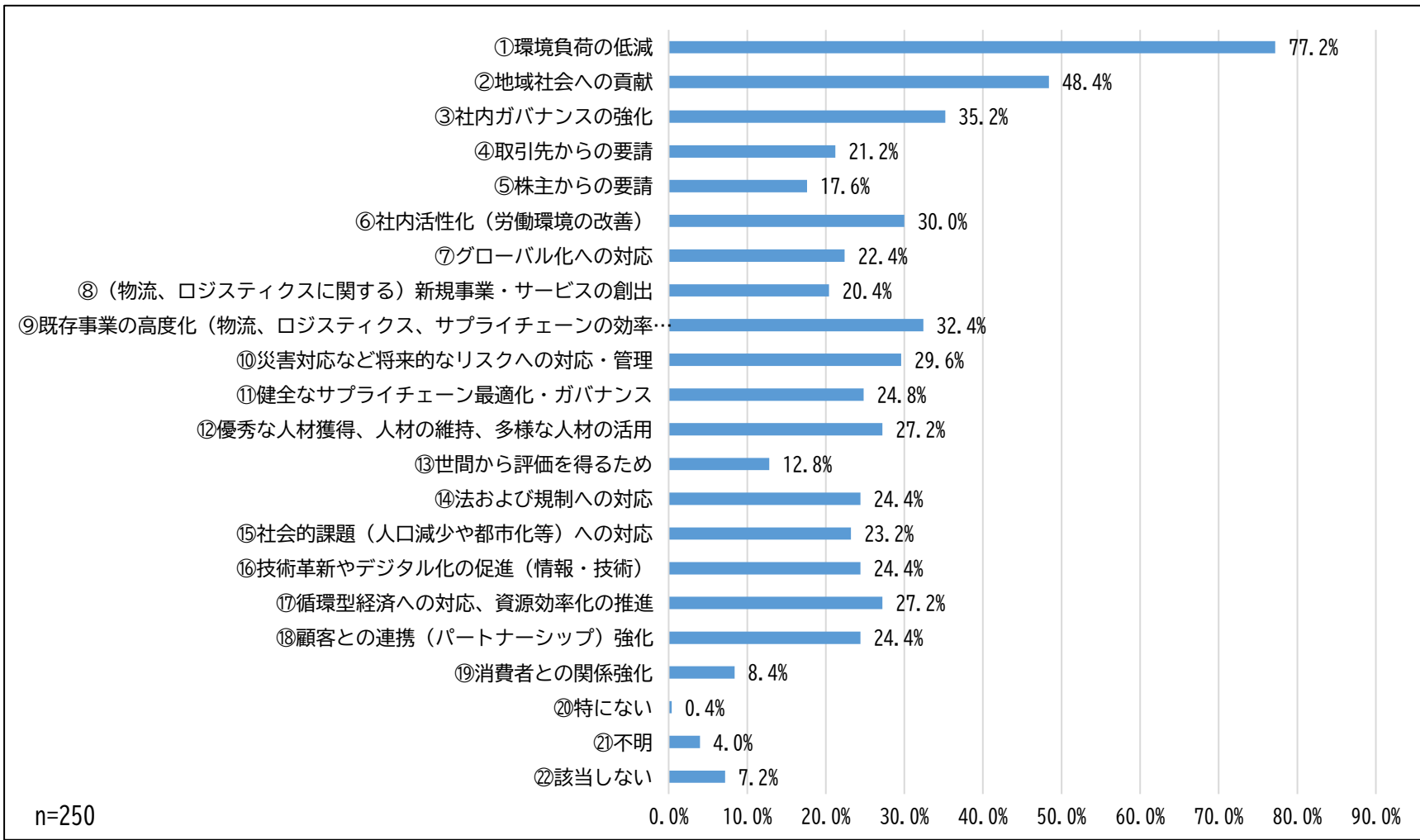


【SDGsに関する取り組みを行っている企業にお聞きいたします】貴社の物流・ロジスティクスの目標として設定しているゴールに該当するものを、選択肢からすべてお選びください（複数選択可）。



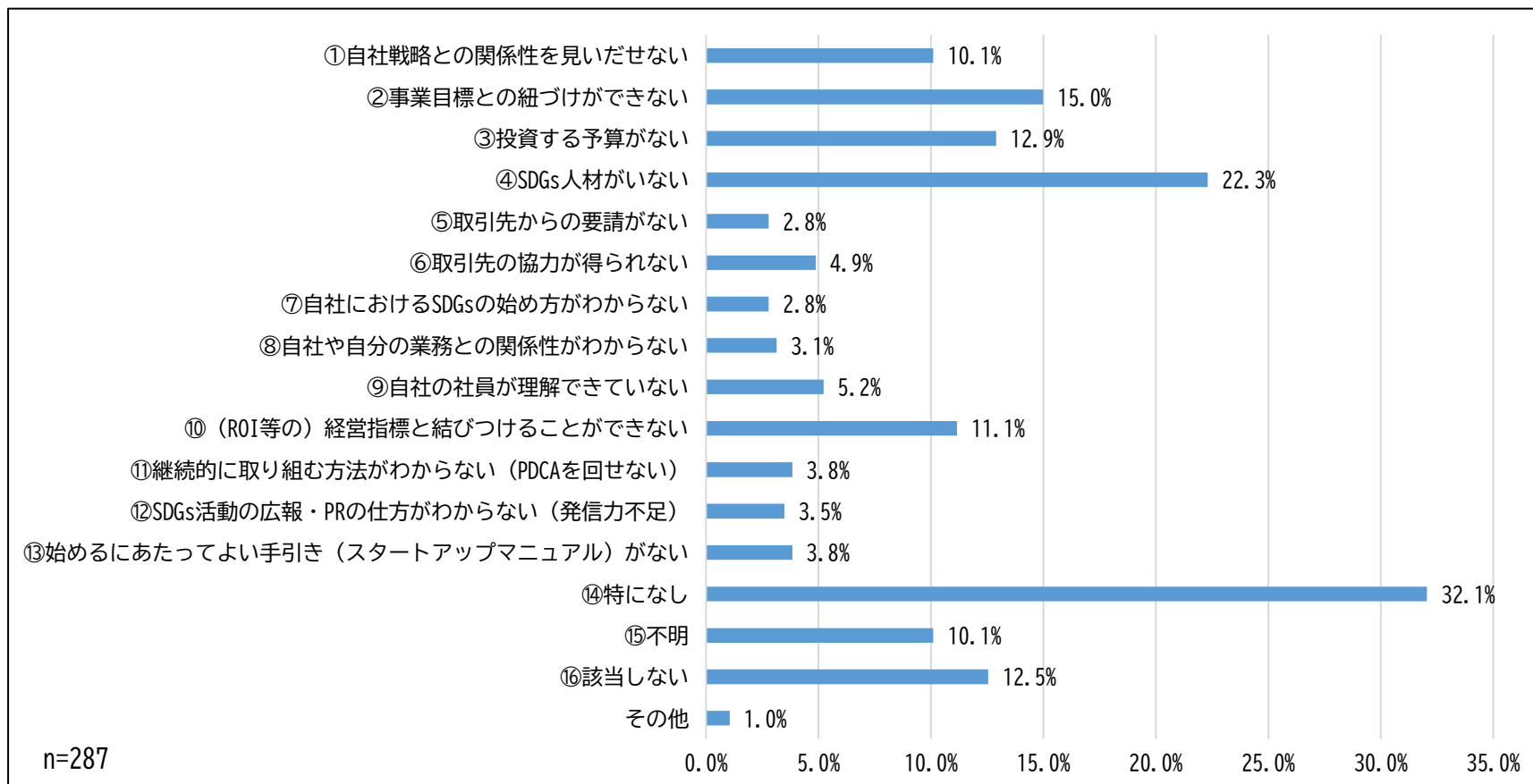
## 9. SDGsに関する取り組み状況

【SDGsに関する取り組みを行っている企業にお聞きいたします】貴社および貴社の物流・ロジスティクス部門においてSDGs推進する動機（ねらい）に該当するものを選択肢からすべてお選びください（複数選択可）。



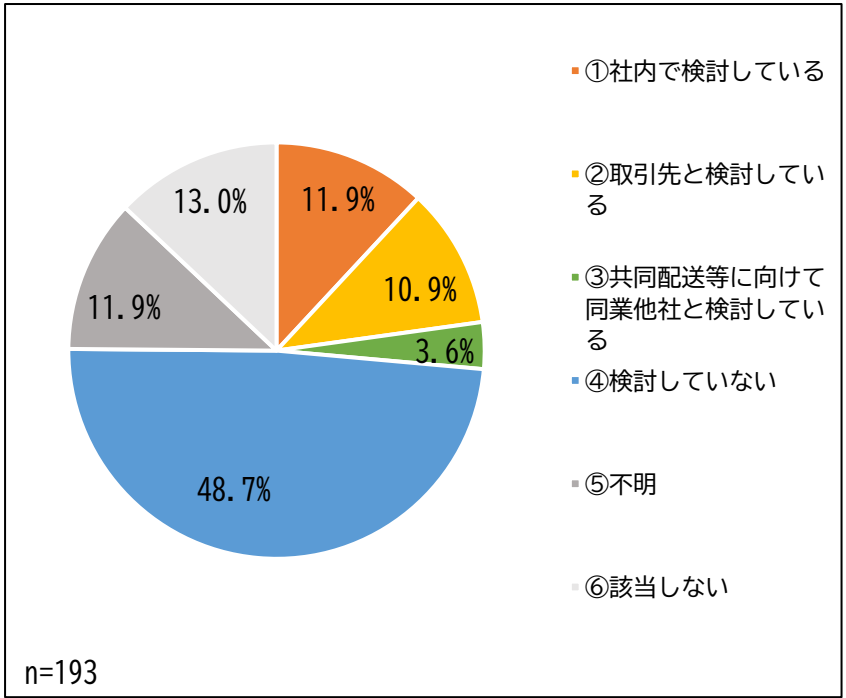
## 9. SDGsに関する取り組み状況

貴社および貴社の物流・ロジスティクス部門において、SDGsに関する取り組みを行うにあたっての阻害要因を選択肢からすべてお選びください（複数選択可）。



## 10. 大阪万博対応

【荷主企業の方のみお答えください】  
大阪万博期間中の物流対策について検討状況をお聞かせください（1つ選択）。



【荷主企業の方のみお答えください】  
「②取引先と検討している」とお答えの方、取引先を具体的に聞かせください（1つ選択）。

